# 土壌医の会通信20

2025年8月25日

目次


1. 土づくり表彰募集始まる
2. 今年度の検定ポスター完成
3. 土壌医活躍中！
   新潟土壌医の会　谷田貝敦さん
4. 事業体土壌医の会紹介
   朝日アグリア株式会社
5. 新着！合格者の声
6. 土壌医の新聞連載お知らせ
7. 土壌医世界進出レポート
   首都圏土壌医の会　五十嵐学さん


## 1.「優良土づくり推進活動表彰」今年度も募集！

「優良土づくり推進活動表彰」は、土壌診断に基づく作物生育改善や、土づくりの普及活動など皆さまの取り組みを奨励する表彰です。今年度も募集を開始しました。

表彰事例は、土壌協会の媒体や、土壌医の会全国交流大会で広く紹介します。

応募者には CPD ポイントが付与されますので、奮ってご応募ください。

例年メディアの取材もあります。

### ■応募期間

2025 年 7 月 1 日～9 月 16 日 17 時

### ■応募内容

個人部門：土壌医の会正会員及び土壌医検定資格登録者

土壌医の会部門：各土壌医の会

### ■応募方法

申請書にて応募。詳細はホームページをご覧ください。

https://soil-doctor.net/award

### ■表彰式

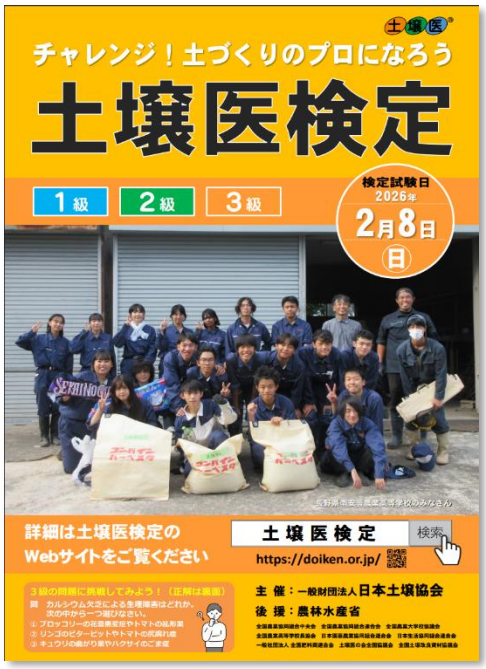
日程：10 月 30 日（金）午後

場所：全国家電会館（東京都文京区湯島 3 丁目 6 番 1 号）

全国交流大会内で実施

## 2. 2025 年度の土壌医検定のポスター完成！

今年も素敵なポスターができあがりました（写真は A4チラシ版で、A4チラシ版には左隅に過去問題を載せています）。



写真は長野県南安曇農業高等学校、大分土壌医の会の
皆さんにご協力いただきました。
ポスターやパンフレットをご希望の方は、
e-mail@soil-doctor.net までご連絡ください。
PR して土壌医検定を盛り上げましょう！

三つ折りバージョン→

## 3. 土壌医活躍中！～新潟県土壌医の会の谷田貝敦さん～

### ■自己紹介と主な活動

新潟県土壌医の会の谷田貝と申します。

多孔質ケイ酸カルシウム製造のクリオン（株）で肥料の技術営業と研究開発に携わっていますが、土壌医活動としては特に新潟県佐渡市の一部で JA 営農指導の方々や農業経営者の方々と共に中山間の水稲産地（酒米含む）における品質・収量の向上を目指した土づくりに取り組んでいます。

**中干し指導会風景**

また、新潟県内に限定しない活動として、「白ネギ品質・収量の向上を期した土づくり」や「アブラナ科を中心とした野菜の高品質育苗と土づくり」等も肥料販社や JA・農業経営者の方々とともに取り組んでいます。

2019（令和元）年 11 月には佐渡市中山間圃場における「土壌診断に基づく酒米「越淡麗」の品質改善」に対し、優良土づくり推進活動（第 2 回）で土壌医の会全国協議会会長賞を賜りました（当時は首都圏土壌医の会）。

土壌医活動の中心が一部作物を除きほぼ新潟県内（特に佐渡市）となったため、現在は新潟県土壌医の会にのみ所属しています。

**白ネギ品質収量 改善試験（右：改良区）**

### ■新潟県土壌医の会の特色

私の所属する新潟県土壌医の会は、OB も含め新潟県の農業研究者や普及指導員、JA の営農指導の方が多く所属されており、情報交流も活発且つタイムリーな参考情報により現地へのフィードバックも速やかに行うことができ、さらに土壌学や肥料関係では新潟大学・新潟食料農業大学や新潟県内の JA・肥料メーカーが多く所属する新潟県土壌肥料懇話会等とのパイプも太く、良好な土壌医活動の原点となっています。このため、土壌医資格登録者の正会員だけでなく「準会員」も多くいらっしゃいます。

### ■直近に対応すべきこと

この原稿を書いている時点では新潟県内の渇水（長期の降雨なし高温）が国内で最も深刻であり、水田（特に中山間）をはじめ各農地で用水確保や圃場管理等可能な限りの対策を講じています。土壌医活動としては関連する水田等の収穫までの作物生育状況・土壌状況等を把握するとともに、収穫成果と圃場（跡地）調査も含め徹底的に解析することで今後の土づくりの参考としていきます。

谷田貝さんにご寄稿いただきました。ありがとうございました！

## 4. 事業体土壌医の会紹介～朝日アグリアさん～

### ■朝日アグリア株式会社の紹介

当社は今年、創業 90 周年を迎えます。「肥料事業」を中心に、「種苗事業」や「牧草事業」を展開しており、日本で唯一の農業資材メーカーです。肥料事業は、堆肥等国内肥料資源を活用した有機資材の開発に注力し、独自の粒状化技術と環境に配慮した設備によって、様々な粒状有機肥料を製造しています。また、堆肥を活用した肥料には、①堆肥と肥料ふたつの効果を併せ持つ、②粒状でまきやすい、③お手頃な価格など、多くの魅力があります。さらに、有機液肥や微生物活用資材などをラインナップに加え、食の安心・安全を支えています。また、2023 年に規格が制定された「菌体りん酸肥料」の活用も推し進めており、日本の国内肥料資源循環の実現に貢献しています。

### ■朝日アグリア土壌医の会

土壌医検定は、農業に携わる企業として社内の目標設定の項目にも盛り込み、積極的に取得を推奨している資格の一つです。資格未取得の新入社員は、まずは 2 級取得を目指し、約 1 年をかけて学習することが恒例となっています。
朝日アグリア土壌医の会は 2017 年 6 月に発足しました。現在の会員数は 52 名（1 級 4 名、2 級 43 名、3 級 5 名が登録）となっています。会員の構成は肥料事業の営業が中心ですが、種苗事業、牧草事業の中にも資格を取得し、会員となっている社員がいます。

会の活動は、会員相互の知識向上や情報共有を行い、農業の土づくり現場での課題解決に役立つ知識の習得を目的とし、①土づくりに関する講習会・勉強会、②土づくりに関する農業現場での研修会、③土づくりの普及活動や情報交換、④会員や生産者への業務推進活動などを行っています。このような活動により土壌への理解を深め、生産者へ土づくりの重要性を伝えることで、持続可能な農業の実現を目指しています。

朝日アグリアさんにご寄稿いただきました。ありがとうございました！

## 5. 新着！土壌医検定合格者の声

2024年度の試験が終わり、合格の喜びの声が続々と届いています。新しく届いた合格者のコメントを抜粋して紹介します。
全文はこちらからお読みください。
https://soil-doctor.net/voice#p7

**１級合格**
**生産者 K さん**

農業の実践に生かせると受験。
家庭菜園する人などをサポートし
農に関わる人を増やしたい。

**１級合格**
**JA 鹿児島県経済連 O さん**

自身の成長のため１級にチャレンジ。
職場の講習会や SNS で土壌医の知識
を発信していきたい。

**１級合格**
**JA 筑前あさくら N さん**

生産者の不安・要望に応えたいと
受験。知識がアスパラの収量向上
に役立った。

**１級合格**
**十勝特産種苗センターM さん**

土づくりの大切さを知り受験。
運営している十勝土壌医の会で作物の
安定生産をアドバイスしたい。

**２級合格**
**JA ふくしま未来 I さん**

新設の土壌分析センター業務のため
JA の１００名超が受験。多面的に土壌
を分析し現場に分かりやすく伝えたい。

**３級合格**
**生産者 H さん**

農業を始める第一歩として受験。
基礎知識がついたおかげで、農家の
会話が分かるようになった。

**３級合格**
**担い手育成支援協議会 A さん**

74才にして、新規就農者に正確な
アドバイスをしようと改めて勉強。
担い手に土壌医受験を勧めたい。

土壌医検定で得た知識を生かして活躍したい、という皆さんの熱い思いが伝わってきます。

## 6. 土壌医の新聞連載お知らせ

昨年に引き続き、全国日刊の農業専門紙・日本農業新聞に、土壌医による執筆記事が掲載されます。
農業の担い手に向けて経営や営農のコツについて解説する「経営のツボ」という連載企画があり、
「土壌医に聞く土づくり」と題して土壌医が土壌改善のポイントなどについて解説します。掲載は次の通りです。

9月3日（水） 長谷川雅義さん（元新潟土壌医の会会長）
9月10日（水）宮丸直子さん（沖縄土壌医の会副会長）
9月17日（水）市原知幸さん（岐阜県西濃農林事務所農業普及課長）
9月24日（水）吉田清志さん（信州土壌医の会会長、JA あづみ営農事業部指導統括）

# 7. 土壌医世界進出レポート　首都圏土壌医の会　五十嵐学さん

## ■FFTC に参加した経緯

私がFFTC（Food and Fertilizer Technology Center）のシンポジウムに同席させていただいた理由は、開催国がフィリピンだったことです。

フィリピンには仕事（漬物屋）の関係で良く出張していて、そのビジネスパートナーである舘野氏に話をしたところ土壌医検定制度をフィリピンメディアに取り上げてもらおうと考えたことが理由でした。

3 月に首都圏土壌医の会主催で開催した現地研修会（2025 年 4･5 月号土壌医の広場掲載）での内容が動画で紹介される。という事でこれは絶対に行かなければと思い行動に移しました。

会場外観

会場内部

## ■シンポジウムの日程･テーマ

2025 年 6 月 10 日から 13 日までマニラの政府機関が集まったエリアの一角で開催されました。

10 日　講師 16 名による講演。

11 日　モバイル土壌研究所（ヌエバ･エシハ）への現地訪問（招待者のみ）。

12 日　土壌の物理的および微生物学的パラメータに関する研修（招待者のみ）。

13 日　土壌化学パラメータに関する研修（招待者のみ）

## ■長谷部さんの発表

10 日 9 時、主催者からのオープニングセレモニーでシンポジウムはスタートしました。
ここからフィリピンタイムが発動し 20 分間で 3 名の挨拶が終わる予定でしたが、一人目の Dr.Elizabeth の講演が始まったのが、なんと 1 時間遅れの 10 時 15 分・・・

その後の講演者の発表は順調に進み、二人目の長谷部さんの発表となりました。

講演内容は「日本の土壌医、その役割と活動」と題して 30 分の講演時間で質疑 10 分。
1. 土壌医検定制度の誕生のいきさつ
2. 土壌医検定制度の概要紹介
3. 土壌医、土壌医の会の活動紹介(活動紹介 3 件(沖縄県(北大東島でのサトウキビ収益改善)、広島県(土壌医による有機野菜栽培、長野県(高校生への土壌診断教育))、
4. 土壌協会制作、6 分間のプロモーションビデオの上映(前半は首都圏土壌医の会の現地研修会の様子、後半は千葉県ネギ農家、長谷川土壌医のインタビュー)。
5. 土壌医検定の今後の展望とまとめ。

視覚的にアピール出来た動画は分かりやすく、印象深かったのか、講演の途中でしたが、会場から大きな拍手が沸き上がった事にはとても驚きました。

10 分間の質疑時間に各国の出席者(フィリピン、台湾、ベトナム、インドネシアの研究者など)やオンライン参加者(フィリピン)からも質問を受け、関心の高さを窺えました。
質問者の主な関心事項は以下の通りです。
・生産者も土壌医の資格をとって、自身の営農改善を進めていること。農業関係者であれば誰でも土壌医を目指せること。
・土壌医検定の受験テキストが各級それぞれ 250 ページの大部であり充実していることや受験セミナーの研修内容についての質問。
・土壌医検定の受験テキストや試験問題の具体的内容についての関心。
・土壌医検定が国からの財政支援なしに運営されていること。
・土壌医検定制度の持続的な発展のための今後の戦略についての質問 など

発表中の長谷部さん

左:舘野氏、中:五十嵐、右:長谷部さん

## ■フィリピンメディアのインタビュー

THEPHILBIZNEWS（https://thephilbiznews.com）の Mr. Monsi に土壌医検定を紹介しインタビューをして頂きました。

インタビュー記事が Facebook で紹介されていますので、是非ご覧ください。

https://m.facebook.com/story.php?story_fbid=pfbid02Waeh5QAKMc67PFtrFb4tK9fxgBwC4Y9L7yMY8NeP2BBekQoRXnK5n8kAYdT6LkiCl&id=100063769309131

インタビューを受ける長谷部さん

Mr. Monsi

## ■REACH INTERNATIONAL SCHOOL

今回の渡航の目的のもう一つがこの REACH INTERNATIONAL SCHOOL。舘野氏がこの学校の校長である Mrs.Cynthia と知り合いということでフィリピンでも土壌医検定を広めたく、Mrs.Cynthia に土壌医について説明をしました。

8日の夕食では Mr. Monsi と Mr. Angelito、Mrs.Cynthia 夫妻も共にしているので土壌医がどのような資格なのか、どのような活躍をしているのかなどを説明しました。シンポジウムには SCHOOL の社長である Mr. Angelito にも同席していただいています。予想以上に興味を持ち始め、学校の校舎は平日の昼間だけしか使わないから週末や夜間に土壌の授業が出来るのではないかと盛り上がりました。

これは土壌協会の全面バックアップがあっての話しにはなりますが是非とも進めて行きたい案件です。

話を進めていくにあたり、英語が喋れる方、タガログ語が喋れる方、興味がある方は是非声をおかけください。 一緒に世界に出てみませんか？

## ■おまけ（フィリピンの風景）

フィリピンと言えば Jollibee（ジョリビー）。フィリピンに行ったら一度は寄らないと気が済まないくらい好きなファストフード店。独特のスパイスが効いたチキンとライスの組み合わせ。ジャンクフートが好きな方なら是非お立ち寄りください。

現地での野菜（全体的に小さい）

8 日の夕飯風景。舘野夫妻、Angelito 夫妻、Mr. Monsi、もう一人のメディア POLITIKO の Mr. Roy と店のオーナー

9 日はタルラク州知事の Christian とネグロス島の下院議員の Hori と夕飯を共にして土づくり談義で盛り上がりました。

右手前：Mr.Hori 右奥：Mr.Christian

五十嵐さんにご寄稿いただきました。ありがとうございました！

## 編集後記

土壌医検定の合格体験記を読み、皆さんのモチベーションの高さに感心しました。合格したあとも地域土壌医の会などで勉強をし続けられるのがこの検定の良いところだと改めて思いました。
また、今回は3名に寄稿していただき、読者として楽しみながら編集を進めることができました。改めて執筆者の皆さまに感謝申し上げます。
ご感想、ご寄稿等をお待ちしております。e-mail@soil-doctor.net までお寄せ下さい。（丸山）